

ふるさと財団「地域再生マネージャー」情報

1. 基本情報					
組織名・所属	北海道大学 観光学高等研究センター				
役職	特任准教授				
氏名	石黒 侑介	ふりがな	いしぐろ ゆうすけ	生年	1982年
連絡先住所	〒060-0817	北海道札幌市北区北17条西8丁目			
電話番号	011-706-5410	メールアドレス	ishiguro■cats.hokudai.ac.jp (■を@に変えて下さい)		
2. 経歴・取組内容、取組分野等					
主な経歴・受賞歴	<p><経歴></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2004年12月 メキシコイバロアメリカナ大学 国際関係学部 単位取得退学 ◆2006年3月 専修大学 経済学部 卒業 ◆2008年3月 横浜国立大学 国際関係法専攻 修了 ◆2008年4月 財団法人日本交通公社(現公益財団法人日本交通公社) 研究員 ◆2014年4月 北海道大学観光学高等研究センター 特任准教授 現在に至る 				
主な取組内容、実績等	<p><インバウンド観光の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域における戦略的なインバウンド推進に関する自主研究(公益財団法人日本交通公社、2010-2011) ◆外国人観光客実態調査調査事業(沖縄県、2013) ◆国別外国人旅行者行動特性調査(東京都、2013) <p><エコツーリズム・グリーンツーリズムの推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆白神山地エコツーリズム推進事業支援業務(環境省、2008) ◆農山漁村における滞在・体験型旅行商品開発及び販売の促進の検討業務(農林水産省、2009) ◆奄美群島における交流人口拡大方策検討に関する調査(国土交通省、2010) <p><地域資源発掘による地域活性化・まちづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆(仮称)中滝ふるさと楽校整備基本構想及び基本計画策定業務(鹿角市、2008) ◆胎内リゾート活性化調査検討業務委託(胎内市、2010) ◆胎内市観光活性化調査業務委託(胎内市、2011) ◆観光活性化調査業務(胎内市、2012) ◆地域食材を活用したまちづくり推進業務(胎内市、2012) <p><政府開発援助案件への専門家派遣></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆モザンビーク国観光マーケティング・プロモーション能力強化プロジェクト詳細計画策定調査(JICA、2011) ◆エチオピア国シミエン国立公園における官民協働によるコミュニティ・ツーリズム開発プロジェクト(JICA、2011-2015) <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆公益財団法人はまなす財団「地域の持続的発展を牽引する新たな観光協会のあり方に関する研究会」座長(2014-2015) ◆JICA中南米地域持続的な地域観光開発コース」コースリーダー(2014-2015) 				
取組分野	○	1	観光振興	7	住民参加・協働
		2	産業振興	8	イベント交流
		3	過疎地域・限界集落の振興	9	食品流通
		4	中心市街地活性化	10	環境
	○	5	まちづくり景観	11	NPO・ボランティア
	○	6	農林水産品の開発・ブランド化	12	その他()
3. 関連ホームページ					
名称	アドレス				
北海道大学 観光学高等研究センター	http://www.cats.hokudai.ac.jp				
石黒侑介オフィシャルweb	http://yusuke-ishiguro.com				


4. ふるさと財団での実績

地域再生マネージャー	◆2010年度～11年度 新潟県胎内市「米粉を軸とした地域食材の活用による商品開発事業」
地域再生セミナー講師	
環境整備型マネージャー	
短期診断マネージャー	

5. 財団報告書

名称	アドレス
平成22年度 地域共創ビジネス支援事業	http://www.furusato-zaidan.or.jp/chiiki/pdf5/1321407101251.pdf
平成23年度 新・地域再生マネージャー事業	http://www.furusato-zaidan.or.jp/3-H23-shinchiikisaiseiM-houkokusho.pdf

6. 写真・ひとことPR

	<p><ひとことPR></p> <p>かつては「住んでよし、訪れてよし」が観光の合言葉でしたが、旅行需要やデスティネーション(旅行目的地)の多様化によって、「住むように訪れる」をいかに実現するかが、今後の観光、そしてまちづくりの重要なテーマだと考えています。</p> <p>すなわち、旅行者や発地側の旅行会社、着地側の観光関連事業者、行政だけが携わる観光まちづくりから、一般の住民や観光とは関係の薄い分野の事業者、団体を巻き込んだ観光まちづくりを進め、住民が日々の暮らしの中で「当たり前」に感じている地域の文化や伝統、生業、自然との関係性などを旅行者が体験し、感動する、そんな観光を通じたまちづくりへの転換です。</p> <p>まずは「観光には関係ない」と思っている人を巻き込める楽しい会議から始めましょう。</p>
---	--